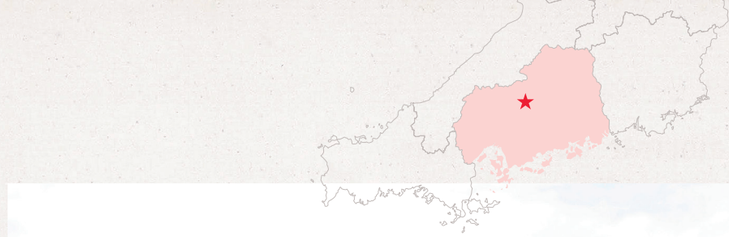

01 中山間地域を支える地域医療の現場！

～ 広島県 地域医療最前線 ～

地域で活躍できる医師を目指して学ぶ姿勢を持ち続ける

JA広島厚生連

吉田総合病院

戦国武将、毛利元就のゆかりの地としても知られる安芸高田市。
市で唯一の総合病院として1943年に開設されたのがJA広島厚生連吉田総合病院である。
救急医療を一手に引き受けながら、健診センターでの予防から
98床の地域包括ケア病棟での回復期・慢性期の治療までトータルで診ている。

病院長
杉山 英二先生
Eiji Sugiyama
岐阜県出身
弘前大学（1980年卒）

内科
杉野 健太先生
Kenta Sugino
広島県出身
自治医科大学（2019年卒）

救急対応から幅広い診療まで豊富な経験を積める

杉山…杉野先生は当院に赴任して1年半ですが、最初の印象はどうでしたか？

杉野…ここに来るまでは三次救急病院に勤務していたので、実は「そこまで忙しくはないだろう」と思っていたんです。でも、実際は外来の患者さんも多いですし、救急や健診にも力を入れているので、想像以上に忙しい日々を送っています（笑）。

杉山…安芸高田市にある総合病院は当院だけなので、患者さんが集中しますからね。救急搬送は年間1000台近く、ウオークインでも3000件以上あります。特に整形外科は県内で初となる人工関節手術専用のロボットを導入するなど、診療に強みがあるので紹介患者が多いです。

杉野…私も救急当番に入ることがありますが、変形性関節症や圧迫骨折などの患者さんは、よく搬送されています。

杉山…救急だけでなく、県北一の健康管理センターと人工腎透析センターがありますし、長年にわたって県北の精神科医療を支えてきたため、身体合併症を伴う精神疾患の患者さんの診療にも取り組んできました。

杉野…幅広い領域で地域のニーズに応えてきた歴史があるのですね。

杉山…そのとおりです。杉野先生もそうですが、当院には地域医療を学びたいという若い先生たちが来てくれてとても助かっています。

編集制作
【民間医局】株式会社メディカル・ブリンシプル社
Art Director：勝又シゲカズ BTTB inc.
Writer：安藤梢
Photographer：猪俣淳

病院長の杉山先生とも気軽に話せる関係性。診療について相談をすることもある。

杉野…この地域に根差した医療をしていると感じるのが、スタッフさんたちのご家族を診るときです。診察日以外にもお会いすることがあるので、気軽に「調子はどうですか？」と聞ける親密さもあります。

杉山…それが地域に密着した病院の良さですよね。

杉野…はい。また、ここに来てから新たにチャレンジしたこともあります。今までやったことがなかった健診業務を担当するようになりました。

杉山…年間5000件以上の内視鏡検査を実施しているので、しっかり手技を身に付けられると思います。

杉野…おかげで今では一通りの健診業務ができるまでになりました。内視鏡検査は3人の医師で担当し、2人の専門医が指導についてくださるので、画像を見ながら「これはチェックした方がいいよ」とアドバイスをもらえます。何かあったときには聞くことができるバックアップ体制が整っているので、安心してできます。

杉山…私も2年半前に赴任してから、専門のリウマチ・膠原病以外に内科全般を幅広く診療するように変わりました。初めは新しい薬の名前を覚えるのも大変でした（笑）。

杉野…そうだったんですね。ここでの勤務は、オンとオフの切り替えができるのも魅力です。

患者さんが多いので勤務時間中はものすごく忙しいですが、時間外はしっかり休める。私は小学校3年生から剣道を続けているので、週に1回は練習に行っています。

杉山…オフの時間は自由に過ごしてほしいので、若い先生たちに負担が集中しないように勤務体制を整えています。杉野先生は、次は六段に挑戦するとか。私も応援しています！

医師として成長するために自分の強みを見つけてほしい

杉山…杉野先生はもともと地域医療に興味があったのですか？

杉野…初めから興味があったわけではないのですが、自治医科大学で学ぶうちに先生や先輩たちからの影響で、徐々に「地域医療に関わりたい」という気持ちが強くなっていきました。

杉山…当院に来てから、診療においてもどんどん成長していますよね。特に患者対応は素晴らしいです。

杉野…そう言っていただけると嬉しいです。最初はICや病状説明で「どうすれば患者さんにうまく伝わるだろうか……」と悩みました。でも、上級医の先生たちの真似をしながら、少しずつ自分なりの話し方を見つけられた気がします。

杉山…コロナ禍では、なかなか面会できないご家族に頻繁に連絡をしていましたよね。

杉野…はい。ご家族が心配されているかもしれないと思ったら、すぐに電話をしていました。そうした連絡を通して、信頼してもらえていると感じられたのは自信につながりました。

杉山…当院の診療では、指導医が「あれやれ、これやれ」と手取り足取り教えることはほとんどありません。自分で判断して、自分で治療をする。なぜならここよりもさらに人員が少ない地域病院に行けば、若い医師でも一人医長になって何でも診なければならないからです。

杉野…そのための準備ができていると思います。さらに各診療科に専門医がいらっしゃるので、自分が学びたいと思ったことは、すぐに聞けますよね。どの先生も気さくに教えてくださいます。

杉山…2024年4月からは広島大学の初期研修プログラムの協力病院として、初期研修医の受け入れもスタートします。和気あいあいとした雰囲気で、地域医療で求められるcommon diseaseの診療を学べるので、ぜひ来ていただきたいです。

杉野…症例もたくさん経験できるのでお勧めです。

杉山…若い先生たちには総合的な診療スキルを身に付けると同時に、「これは自分の強みだ」と言えるものを持ってほしいと思っています。

杉野…私は内科全般の診療をしながら、今後は皮膚科についても学びたいと考えています。杉山先生がおっしゃるような強みにできたらと。

杉山…皮膚科を診られる総合診療医は強みになりますよね。地域医療を目指す人たちも、高度医療を学ぶことはとても大切です。初期研修を地域の病院で受けてから、さらに高度な医療を学ぶために都市部の病院に行くのも選択肢の一つ。修練を積んだものを地域に生かしていけば、より地域医療に貢献できるはずです。

JA広島厚生連
吉田総合病院

〒731-0595
広島県安芸高田市吉田町吉田3666
TEL：0826-42-0636
FAX：0826-47-0007

Hospital Director：
杉山 英二

■ 病床数 …255床
■ 医師数 … 30名

https://yoshida-gene-hospi.jp